

2019年8月8日

ニュースリリース

株式会社ノベルズ

## 山形県酒田市における牧場経営について

株式会社ノベルズ（本社：北海道河東郡上士幌町、代表取締役社長：延與 雄一郎、以下「当社」）は、関係各位と協議のうえ、山形県酒田市で酪農牧場を新たに経営することにいたしました。酒田市に当社のグループ会社を設立し、地元の皆さまとしっかり共生できるよう、誠意をもって取り組んでまいります。

なお、山形県最上町においても、肉牛の肥育牧場を経営する所存です。

### <山形県酒田市の牧場概要>

会社名	株式会社鳥海高原デーリィファーム（仮）
役員	代表取締役 延與 雄一郎 取締役 北村 渉 取締役 金田一 雅人
住所	山形県酒田市草津字藤平台3 旧鳥海高原牧場
事業形態	ホルスタイン 900頭規模による酪農経営
主な施設	牛舎、搾乳施設、堆肥舎、浄化槽など
事業準備	2019年9月からを予定
建設着工	2020年5月予定

- ・旧鳥海高原牧場は、酒田市が民間会社に経営委託していた牧場でしたが、経営の見直しを模索されており、2019年2月、当社にご相談をいただきました。
- ・当社としては、北海道で培った“一気通貫型”の生産システム（\*1）と「耕畜連携」の仕組み（\*2）が山形の地でも地域の発展に有益ではないかと考え、前向きに検討してまいりました。
- ・当牧場は、ノベルズグループとして3か所目の酪農牧場となります。

\*1) 当社では、受精卵生産、繁殖、育成など、畜産分野における生産の「川上」から、マーケットにおける消費活動に直結する食品加工や販売の「川下」までを内製化し、市場環境の変化に対応できる強く柔軟なグループ経営を実現しています。

\*2) 家畜排せつ物を活用した有機液肥の消化液を周辺の畑作農家に販売し、乳牛の飼料となるデントコーン栽培を委託し、収穫後に当社が買い上げる、当社が推進する循環型の農業経済モデルです。消化液と飼料を融通し合うことで、畑作と酪農の両者に大きなメリットが生まれ、地域共生（Win-Win）への貢献や、耕作放棄地の有効利用も可能となります。

### <山形県最上町の牧場概要>

会社名 株式会社ノベルズ最上 (2019年4月設立)  
役員 代表取締役 延與 雄一郎  
取締役 三上 濃  
取締役 本田 隆浩  
住所 山形県最上郡最上町大字志茂769番地 二戸牧場  
事業形態 肉牛800頭規模による肥育牧場経営  
主な施設 牛舎、堆肥舎、浄化槽など  
事業準備 2019年8月予定

### <ノベルズグループの概要>

ノベルズグループは、肉牛に係る「交雑種1産取り肥育(※)」の事業化を目的とする2006年の株式会社ノベルズ設立に始まり、現在は主要9社によるグループ経営を行っております。また、北海道十勝を拠点に肥育・育成・酪農の計10牧場を経営しております。特に、酪農事業は平成24年から生乳出荷を開始し、平成30年度の生乳出荷量ランキングでは北海道内1位になりました。

※「交雑種1産取り肥育」とは、交雑種の若い雌牛に、1回だけお産をさせて黒毛子牛を取り上げ、トータル32カ月以上の長期飼養後に肥育牛として出荷する先進的な生産手法で、全国に先駆けてノベルズグループが大規模な事業化に成功しました。

- 社名 株式会社ノベルズ
- 設立 2006年12月1日
- 資本金 1,000万円
- 代表者 代表取締役社長 延與 雄一郎
- 所在地 〒080-1408 北海道河東郡上士幌町上士幌東3線259  
TEL.01564-2-3660 FAX.01564-2-4672
- 役員 代表取締役 延與 雄一郎  
常務取締役 千田 光昭  
取締役 西尾 康宏 吉田 大樹 園尾 眞一  
社外取締役 静永 純一  
監査役 竹川 博之
- 事業内容
  - ・肉牛事業 (自社ブランド牛や素牛の生産、肥育など)
  - ・酪農事業 (現在、十勝管内清水町にて「ギガファーム」を経営)
  - ・食品事業 (自社ブランド「十勝ハーブ牛」「N34」の販売促進)
  - ・耕畜連携 (バイオガス発電、発電後の消化液を活用した農家との連携)

- 総飼養頭数 26,569 頭（うちホルスタイン 6,885 頭／2019 年 6 月末現在）
- 耕畜連携規模 デントコーン契約農家 61 戸、消化液販売契約農家 31 戸
- 耕作面積 自社 234ha、賃借 221ha、委託 793ha、計 1,248ha
- 従業員数 404 名（取締役・社員・パート・アルバイト／2019 年 6 月末現在）
- 売上高 約 173 億円（平成 30 年度／グループ全体）

※建設開始前の事前準備段階のため、今後、計画の内容が変更になる場合があります。

以上